

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K18842

研究課題名（和文）緩和ケアを実践する看護師の共感満足と質の高い終末期ケアを両立できる職場環境

研究課題名（英文）A work environment that maintains both nurses' compassion satisfaction and end-of-life care quality for nurses practicing end-of-life care

研究代表者

東端 孝博（HIGASHIBATA, Takahiro）

筑波大学・附属病院・病院助教

研究者番号：60869577

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：職場ごとの共感満足の比較では、訪問看護、緩和ケア病棟、一般病棟の順に看護師の共感満足が高い結果となった。それぞれの職場ごとの解析では、職場環境因子のうち、一般病棟では「価値観」、緩和ケア病棟では「報酬」、訪問看護では「裁量権」と「共同体」が共感満足と強い関連を示し、それぞれの職場の特色を反映した結果となった。

一方終末期ケアの質に関しては、一般病棟では「仕事の負担」、緩和ケア病棟では「共同体」が終末期ケアの質を向上する方向に関連を認めたが、訪問看護ではいずれの職場環境因子も有意な関連は認めなかった。この点は、訪問看護師による終末期ケアの質が職場環境に依存していないことを示唆した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

訪問看護師の共感満足はこれまで報告がなく、本研究により訪問看護師の共感満足の高さが明らかとなり、看護師の共感満足を理解する上で重要な知見が得られた。さらには職場ごとに共感満足と関連する因子が明らかとなったことにより、今後の職場環境改善の介入研究につながる可能性がある。こちらの成果は国際誌 International Journal of Nursing Studiesに掲載され、学術的意義が評価された。

社会的意義としては、今回の研究成果をもとにした介入研究にて、職場環境改善が看護師の共感満足の向上に有効であることが実証されれば、看護師の離職防止や終末期ケアの質の向上に大きく寄与すると考える。

研究成果の概要（英文）：A comparison of compassion satisfaction by workplace showed that compassion satisfaction was highest in home care settings. In the analysis of each workplace, among the workplace environment factors, "values" in general wards, "reward" in palliative care units, and "control" and "community" in home care settings showed significant associations with compassion satisfaction, reflecting the characteristics of each workplace.

On the other hand, regarding the quality of end-of-life care, "workload" in general wards and "community" in palliative care units were found to be associated with the quality of end-of-life care, while none of the work environment factors were significantly associated in home care settings. This suggests that the quality of end-of-life care provided by home care nurses is not dependent on the work environment.

研究分野：緩和ケア

キーワード：看護師 共感満足 終末期ケア 職場環境 訪問看護 緩和ケア病棟

## 1. 研究開始当初の背景

### 感情労働

看護師は、不安や緊張の強い患者から、受容や共感的理解のような感情的な関わりが期待される一方で、対患者関係を通して引き起こされるさまざまな自身の感情をコントロールすることも求められる。特に緩和ケアを実践する看護師は、死が差し迫っている状況で死を受容できない患者や対応困難な症状を抱える患者と接する機会が多く、患者のみならず自分自身のケアも重要となる。社会学者の Hochschild は「他者の感情状態を変化・維持することを目的として、適切であるとみなす感情を、声や表情あるいは身体動作によって表現し、そのために自分自身の感情を調節する労働」を感情労働と定義している。この概念に基づいて、看護師の感情労働は、「患者にとって適切であると見なす看護師の感情を患者に対して表現する行為」と定義され、感情労働は看護の仕事には欠かせない労働のひとつとされる。

### 職業上の Quality of Life (QOL)

感情労働への就労が看護師に与えるストレスにより、バーンアウトや共感疲労といったネガティブな影響がしばしば問題となる。バーンアウトは「期待と現実の狭間で生じるさまざまな矛盾が慢性的に持続した結果生じる身体的、情緒的、精神的疲弊」(鈴木,2004)。共感疲労は「トラウマティックな出来事を経験した人を援助する、もしくは援助しようとすることによって生じる自然な結果としての行動や感情」と定義されており、両者は区別して認識される必要がある。一方で、感情労働であるがゆえに他者への配慮が自己肯定を生み、職務への充足感や魅力につながるなどの指摘があるように、ポジティブな影響にも注目が高まっている。そのひとつに共感満足という概念が提唱されており、Stamm によって、「人々を援助することや職務をうまく行うことにより得られる職業的な喜び」と定義されている。共感満足はバーンアウトや共感疲労とともに職業上の QOL を構成しており、これまでの研究より、共感満足はバーンアウトや共感疲労と負の相関関係が認められている。職業上の QOL は職場環境の因子や個人の因子により影響を受けており、がん患者のケアを専門とする看護師を対象とした国外の 2 つの研究では、職場環境の因子のうち、がん患者の喪失や心理的ケアに関する学習機会があることやチームとしての連帯感が強いことが高い共感満足と関連していると報告されている。

### 課題

一方、感情労働はケアの一部であり、ケアを通じて患者の苦痛を軽減することを目的とする行為である。患者の苦痛を最大限に緩和するためにはケアの質を高める必要があるものの、その反面ストレスが増加し、看護師の職業上の QOL を損なう可能性がある。理想としては、共感満足と患者へのケアの質を両立させることが望ましいが、ケアの質を含めて共感満足を扱った報告は国内外とも未だない。そのため、看護師の共感満足を高めつつ、質の高いケアを患者に提供するためには、職場環境はどうあるべきか、という問いは、さまざまな苦痛を抱える患者、特に緩和ケアを必要とする終末期の患者への看護を考える上では重要な課題である。

## 2. 研究の目的

本研究の主たる目的は、緩和ケアを実践する看護師の共感満足と患者への終末期ケアの質を両立することが可能な職場環境を実現するため、共感満足と終末期ケアの質の両立に必要な職場環境の因子を探索することである。本研究では、「ある特定の職場環境においては、看護師の共感満足と終末期ケアの質の両立が可能である」という仮説のもと、職場環境の因子の探索を行う。

### 職場（一般病棟、緩和ケア病棟、訪問看護）間での比較

異なる職場に共通する因子やそれぞれの職場ごとに特徴的な因子の探索

## 3. 研究の方法

2022年7月25日から8月26日にかけて一般病棟、緩和ケア病棟、訪問看護で勤務する看護師を対象にオンライン調査による横断研究を実施した。調査では、便宜的抽出にて協力が得られた施設に所属する看護師に対してパンフレットを配布した。共感満足は ProQOL 日本語版で評価し、職場環境因子としては、職場環境の包括的な指標である Areas of Worklife Survey (AWS) にて評価を行った。同時に年齢、現在の職場での経験年数、夜勤、教育の機会、周囲のサポート、ワークライフバランス、医師との関係性について調査した。

#### 4 . 研究成果

パンフレットを配布した 828 名の看護師のうち、回答のあった 358 名を研究対象者とした。職場ごとの共感満足の比較では、訪問看護、緩和ケア病棟、一般病棟の順に看護師の共感満足が高い結果となった。それぞれの職場ごとの解析では、職場環境因子のうち、一般病棟では「価値観」、緩和ケア病棟では「報酬」、訪問看護では「裁量権」と「共同体」が共感満足と強い関連を示し、それぞれの職場の特色を反映した結果となった。

一方終末期ケアの質に関しては、一般病棟では「仕事の負担」、緩和ケア病棟では「共同体」が終末期ケアの質を向上する方向に有意な関連を認めたが、訪問看護ではいずれの職場環境因子も有意な関連は認めなかった。この点は、訪問看護師による終末期ケアの質が職場環境に依存していないことを示唆した。いずれの職場においても、共感満足と終末期ケアの質の両者と有意な関連を認めた職場環境因子はなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Takahiro Higashibata, Jun Hamano, Hiroka Nagaoka, Tomoyo Sasahara, Takaki Fukumori, Tomoko Arahata, Ikuko Kazama, Tetsuhiro Maeno, Yoshiyuki Kizawa	4. 巻 143
2. 論文標題 Work environmental factors associated with compassion satisfaction and end-of-life care quality among nurses in general wards, palliative care units, and home care settings: A cross-sectional survey	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Nursing Studies	6. 最初と最後の頁 104521
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 東端孝博、浜野淳、長岡広香、笹原朋代、福森崇貴、新幡智子、風間郁子、前野哲博、木澤義之
2. 発表標題 一般病棟、緩和ケア病棟、訪問看護における看護師の共感満足と比較と関連因子の探索
3. 学会等名 第28回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takahiro Higashibata, Jun Hamano, Hiroka Nagaoka, Tomoyo Sasahara, Takaki Fukumori, Tomoko Arahata, Ikuko Kazama, Tetsuhiro Maeno, Yoshiyuki Kizawa
2. 発表標題 Impact of collegial nurse-physician relationships on nurses' professional quality of life: an online cross-sectional study
3. 学会等名 15th Asia Pacific Hospice Conference
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------